

日 本 の

屋 根



豊島区立さくら小学校 4年 土成田 蒼

●●●●● 目次 ●●●●●

	ページ数
1 まえがき	1
2 目次	2
3 日本の屋根の形	3~5
4 日本の屋根の素材	
◦ 軽くなった日本の屋根	6
◦ 現在よく使われている素材	7~8
5 ぼくの住む町の屋根を見てみよう!!	9~11
6 気候によって屋根はちがうのか	
◦ 雪の多い土地	12
◦ 暑くて台風が通る土地	13
◦ 家にある物で実験	14~18
7 日本の屋根の歴史	19~38
8 見に行った事がある昔の屋根	
◦ うだつのある町(岐阜県 美濃市)	39~40
◦ 犬山城(愛知県 犬山市)	41

9 今年の夏休みに見に行った昔の屋根

・合掌村(岐阜県 下呂市)

・名古屋土成(愛知県 名古屋市)

42~43

44~47

10 まとめ

48~50

参考資料

1

まえがき



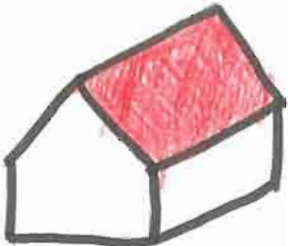


高い建物から町を見ると、いろいろな形や大きさの屋根が見えます。家の大きさや古さによってもちがいはあるななにかおもしろいなと思いました。ほくの変知果に住んでいるおいしいちゃんとおはあちゃんは夏休みに会うと、いろいろな所に連れていってくれます。古い町並みやお城などです。そらでも「へー」と思うことば「なるほど」と思うことば、「昔の人ってすごいな」と思うことばたくさんありました。今年の夏休みもおいしいちゃん、おはあちゃんといろいろな所へ出かけて、いろいろな体験をしました。その中でも特に「へー、なるほど」と思った屋根について調べてみることにしました。

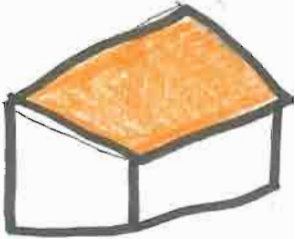
2 調べ方

- 図書館へ行って本や資料を見る
- 実祭に町を歩いて、見て調査する
- 家にあるものを使って簡単な実馬会をする
- 前に行った場所の写真やパンフレットを見る
- 今年の夏休みに行った場所のパンフレットをもってきてきたり、
写真をとってきてきたり、お話を聞いてくる

3 日本の屋根の形

- 屋根を設置することを「葺く」という
- 屋根の傾きのことを「勾配」という
- 日本は雨が多いため、屋根から雨水が早く流れ落ちるよう、二つ以上の勾配のある面で木構成を建てて、ひたが長いのが特ちょう。西洋には平らな陸屋根が多い。

形	特ちょう
<p><u>切妻(きりま)屋根</u></p> 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 和風、洋風どちらでもいいので多くの住宅で使われている ◦ 雨モリの勾配が最も少ない ◦ 雪が流れ落ちやすく、雪の重みが家にかかりにくいので、雪が多い地域にも使われている ◦ 神社などに多い
<p><u>寄棟(よせだ)屋根</u></p> 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 和風、洋風どちらでもいいので多くの住宅で使われている ◦ 木構造上、しょうぶ ◦ 台風などの風圧に耐えて最も強いといわれている
<p><u>入母屋(いもや)屋根</u></p> 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 切妻と寄棟を合体したような形が特ちょう ◦ 和風の住宅に多く使われる ◦ 寺院やお城で多く見られる ◦ 三角形のかべの部分を作りにくいので、最近の住まいではあまり使われない

片流れ屋根

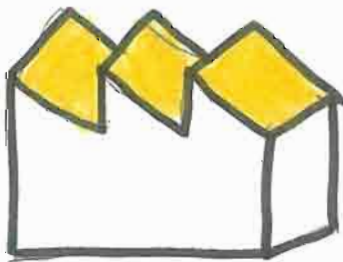
- 最も単純な造り
- 風を受ける面積が広いので、台風に強い

方形(ぼた)屋根

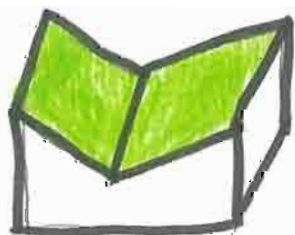
- 寄棟の一種で、正方形の土地で寄棟を使うとピラミッド型の屋根になる

陸(く)屋根

- 平りな屋根
- 木造住宅では、木造造的な理由から、使われない
- 鉄筋コンクリートの建物に用いられる
- 雨漏りに注意がいる
- 屋上可以利用できる

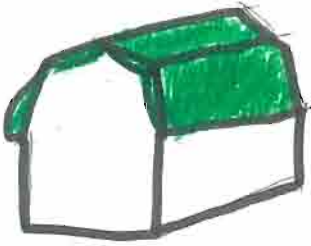
のりぎり屋根

- 片流れが連なった形の屋根
- 連続的に立ち上がったかべに光が当たるので、窓や出入口を作るので、工場に多く使われる
- 住宅ではほとんど見られない

バタフライ屋根

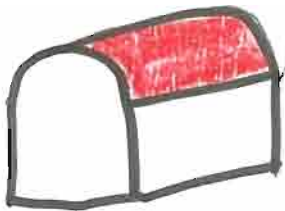
- ちょうちんの羽の形
- 雪かきが必要な土地域では使われない

腰折れ屋根



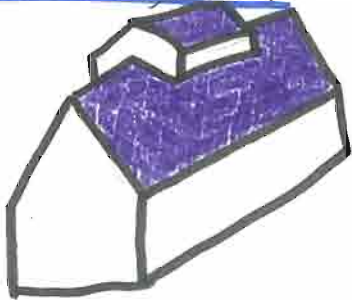
- 二重葺きの屋根の角度がある屋根
- 北海道ではよく見かけるが、九州と地方ではほとんど見かけない
- 上段→ゆるい勾配
- 下段→急な勾配

かまぼこ屋根 (Rヤル屋根)



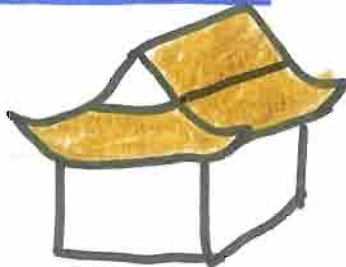
- 最近の住宅にしかしか見られる
- 体育館の屋根などによく見かける。

越(こし)屋根



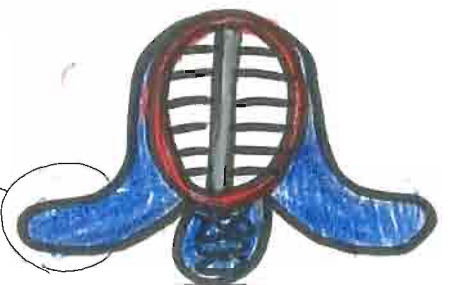
- 切妻屋根の一部を持ち上げたような屋根
- 持ち上げた部分から換気が明りがとれる
- 昔の和風の家によくあったが、今はあまり見かけられない。

しころ屋根



- 「しころ」とは、かぶとか剣道の面のすそにたれている部分をいう。

しころ ←



4 日本の屋根の素材

● 軽くなった日本の屋根

● 日本の伝統の屋根

↓
粘土瓦

- ・ しほふて 長持ちする
- ・ 重いので 台風などの強風にもたえらる

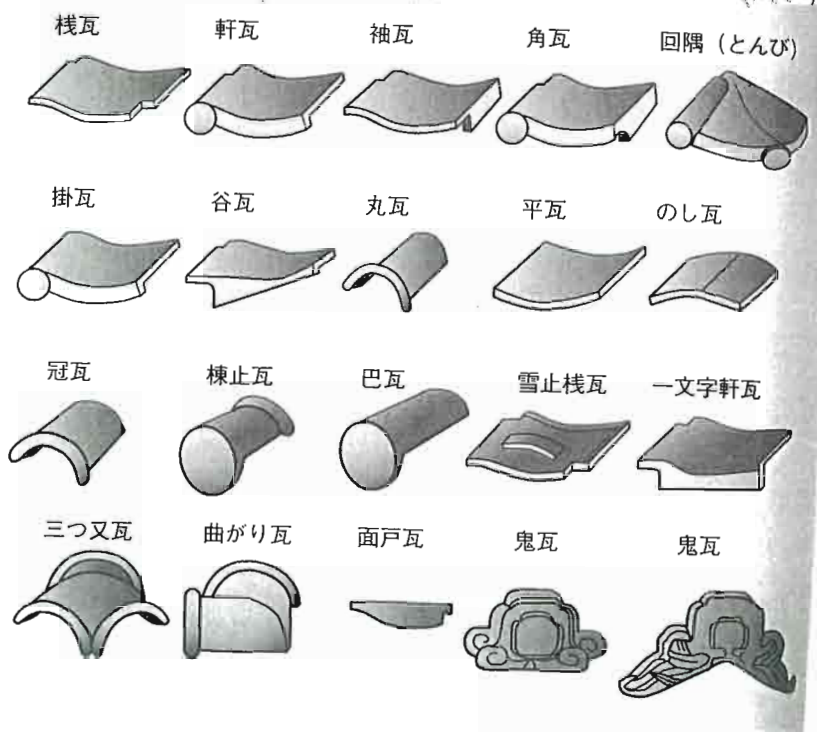
● 日本の三大産地

↓

- ・ 三州瓦 (愛知県)
- ・ 淡路瓦 (兵庫県)
- ・ 石州瓦 (島根県)

● 日本瓦の種類

(2/48)



● 関西は台風の通り道なので地震よりも台風を重要視していた

↓
粘土瓦が多い

↓
阪神淡路大震災の時多くの粘土瓦の住宅が倒壊

↓
建物にかかる衝撃が大きくなり重くて危険というイメージができた

↓
軽い屋根を使う住宅が増えた

●現在よく使われている素材

スレート系



(B)

*粘土板岩などのうすい板の事

天然のもの、人工のものがある

天然・玄昌石を材料にした物

- ・退色しない
- ・黒くツヤがある
- ・重くて、高価

人工

- ・現在の新築住宅で一番使われている
- ・セメントにせんいをまかせて強化したうすい板状の素材
- ・丈夫で軽くて、取りつけやすい
- ・色やデザインも豊富

セメント系



(P)

・セメントと石少を原料とした瓦

- ・長年使っていると、乾かして、とそうかいはかかれたり、ひびわれれたりするので、メンテナンスが必要

粘土瓦



(O)

通常瓦と言う場合は、この米粘土を焼いた粘土系(瓦)を言う。

形によっては、和瓦と洋瓦に分けることもある。

他の屋根材に比べて重いので地震に弱い。

音を遮断する事には向いているので雨音も気にならない。

急な屋根や複雑な屋根には向かない。

金属系



(R)

加工しやすく軽い。

複雑な屋根の形にも対応できる。

断熱性が悪い。

音を遮断する事ができにくいので雨音が気になる。

耐水性がある。(雨に強い)

見栄えに、やや風格がない

雪の重みがかかるため、軽い屋根がいい
つららが付着しても屋根が悪くなりにくい

↓
寒冷地で多く使われる

5 ぼくの住む町の屋根を見てみよう!!

● ぼくの住む町にはどんな屋根があるのか

● 調べた場所 → 東京都豊島区南長崎6丁目

(下の
土也図
参考)

● 調べた家の数 → 446件

- ・大きなマンションはよくない
- ・アパートは2階建てまで

● 調べ方 → 屋根の形と素材を見る。

よく見えない場合は双眼鏡を使ったり
場所を変えて見る。

● 調べることにかかった時間 → 3時間





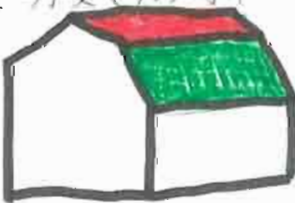







● どんな素材が多いのか

1位	スレート系	240件
2位	瓦系	131件
3位	金属系	53件
4位	コンクリート系	14件
見えない 見分けがつかない		8件

計 446件

● どんな形が多いのか

1位	切妻 	217件	2位	寄棟 	131件
3位	片流れ 	41件	4位	陸 	22件
5位	(切妻、腰折れ) 	9件	6位	(片流れ、腰折れ) 	6件
7位	入母屋 	4件	8位	(頂点が平らな切妻) 	3件

9位	しころ 	1件	9位	月折れ 	1件
見えない 見わけが つかない	11件		計 446件		

● 分からないこと

● スレート素材の切妻屋根が一番多かった

● 古い家は金属系やコンクリート系の屋根が多くて、新しい家はスレート系の屋根が多かった

● 屋根の形が複雑なものが多くて、分類するのがむずかしかった

- ↓
- ・ デザイン白勺な事
 - ・ 屋根の素材によって勾配が変わる事がある
 - ・ 屋根の形で近所の家の日が当たらなくなるのをふせぐため ⇒ 日照権

● ほとんどの家の屋根はらむの切妻、月折れのタイプでスレート系の素材だった

● スレート屋根には雪止めが全部ついていたが、瓦屋根にはほとんどついていなかった。

6 気候によって屋根はちがうのか

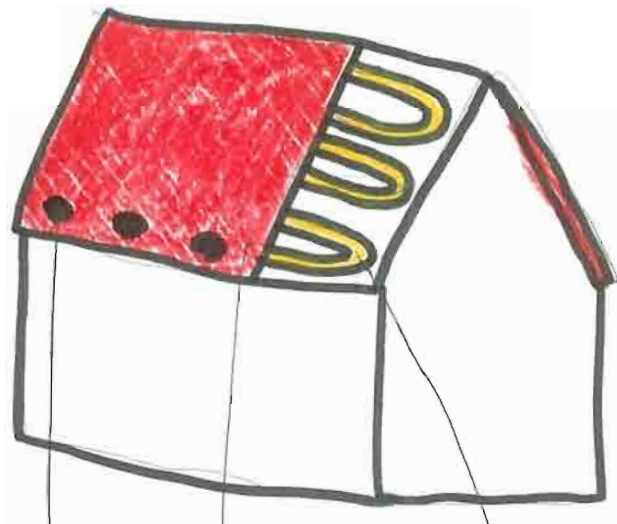
● 雪の多い土地や地域



(F60)

● 富山、岐阜の合掌造り

勾配が重い
↓
雪が落ちやすい



雪止め 金属の素材 温水パイプ

● 北海道の屋根

● 雪がすべりやすい金属の屋根の素材を使っている

● 融雪システム

↓
屋根に温水パイプをめぐらし雪をとかす

● 道路やとなりの家に接している場合、雪が落ちて人に当たらないように、屋根の下のほうに雪止めをもうける

● 暑くて台風が通ると也土或



(F249)

● 沖縄県 竹富島

夏から秋にかけて台風が通る

↓
雨や風の被害

↓
台風にあえ、住か人を
雨や風から守る

● 雨端・・・雨風をふせお直射日光をさえおるために大きく張り出したてさし

● 屋根・・・台風の強い風にあおられてつおれないように低く作られ、瓦のすき間は漆喰(しっくいー石灰など)を練って作った建築素材)でぬりかたやうたてている

● シーサー・・・^{こまいぬ}沖縄の家の屋根に神社の狛犬のような動物の置き物が置かれている事がある。「シーサー」とよばれる伝説上のけもの象で、台風や火事、満気などいさよまなあさ"おいらり家か家族を守ってくれるとけいりおている。もともとはお寺やお城の屋根や門などに魔よけとして置かれていたが日月治時代に瓦葺きの民家か作られたようになると、屋根の上に置かれるようになった。他の地土或に見られる鬼瓦と同じような役割り。



(F14)

● 建物は風のでいこうを受けにくいように平屋(1階建て)になっている

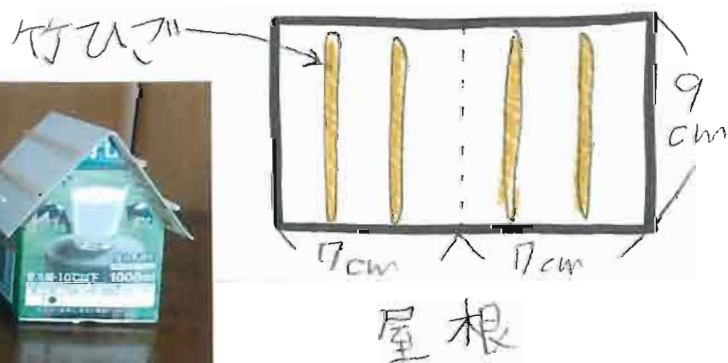
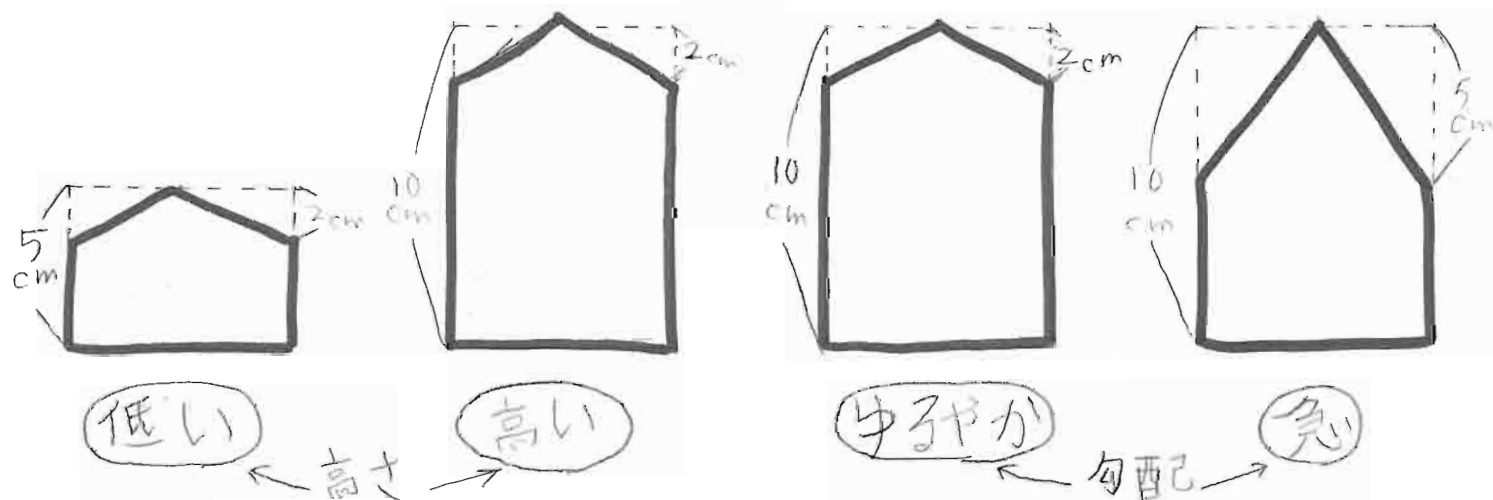
● 家にある物で実験

● 用意する物

- 牛乳パック
- 扇風機
- 木工用ホシト
- かき氷機
- カムテープ
- トレイ
- 竹ひし
- アルミホイル



● 牛乳パックで家の模型を作る



● 沖縄の台風が通る土地が平屋が多いわけ

。扇風機の風を台風の風にみたてて実験

扇風機の風量

弱

中



。③だと両方とも動かなかったが、④にしたと高い方が重かった

高い方が風を受ける面積が大きいので被害を受けやすい

● 雪のふる土地土或て勾配が負いな屋根や金属系の素材の屋根が多いおけ

。かき氷を雪にみたてて実験



(A)

(B)

(C)

- ① (A) 勾配がゆるやかな屋根
 (B) 勾配が負いな屋根
 (C) 勾配がゆるやかな金属系(アルミホイル)の屋根

に30グラムのかき氷をのせる



② 6分後

◎の片方が落ちた



①② まだ残っている



③ 8分後

④ 全部落ちた



④ 16分後

⑤ 片方落ちた



⑤ 23分後

③ 全部とけた



④ 少し残っていた

⑥ 結果

③ → ④ → ⑤ の順にかき氷が無くなった

勾配が急いで金属系の素材の屋根が雪の多い地域には
おいている事がある

7 日本の屋根の歴史

大昔から屋根に使われていた素材

- 茅(かや) → チガヤ、スゲ、ススキ、ヨシ、稲わら、麦わらなど、屋根に使う草の事。最も古い建築の材料。風通しがよく、熱を遮断するのにすぐれている。植物なので、水をふくむと膨張して、茅と茅のすきまがつまり、何層にもなっているので、雨どししない。

- 桧皮(ひのかわ) (桧) → 桧(ひのき)の木の皮 (木會)



木齢70年以上の木の根元から木へらで皮をはがす。下から上へと順番にはがしていく。

桧の木

- 板葺き

- 柿葺き (かき) → 最も薄い板(柿板)を使用。板の厚さは、2~3mm。最も板葺きの中で高級。サワラ、スギの木を使用。

※柿の木とは関係ない

- 木貝戎葺き (とくさ) → 柿板よりも厚い板(木貝戎板)を使用。板の厚さは、4~7mm。

- 桐葺き (とち) → 最も厚い板(桐板)を使用。板の厚さは、1~3cm。

- 長板葺き

- 木瓦葺き

● 石置き板葺き → 板葺きの上に石を置く。

● 瓦 → 4000年前に中国で作りられた。

● 中国... 再利用された記録がない。

● 日本... 取り壊された建物から使える瓦を再利用。

● 何百年もの間日本社会は身分や地位、権威、権力によって使われる材料に違いがあった。

● 木植物生の屋根は神社の建築と共に発達。

● 瓦は仏教と共に伝わったので、寺院の象徴。

石器時代
(? ~ 10000年前)



● 平地住宅(石器時代の名残あり)
● 円形または方形
● 草の屋根を土せ面まで葺いてかべと一体化している。

(912)

縄文時代
(10000年前 ~ 300年)



近畿、山陽、北九州の平野部

草葺き

北陸、山陰、東北の山間部

土屋根

という説がある

(912)

弥生時代
(300年 ~ 西暦300年)



竪穴式住居
草を葺いた屋根で、上にけむりが出る口がある。

(913)



高床式倉庫
お米などの食べ物
をしまっていた。

茅葺き屋根

(G13)

飛鳥時代
(300年
〜
710年)



(G8)

奈良県の元興寺
593年に本堂と禅堂に、
朝鮮半島の百濟(くだり)から
招いた瓦職人によって
焼かれた瓦が使われている。

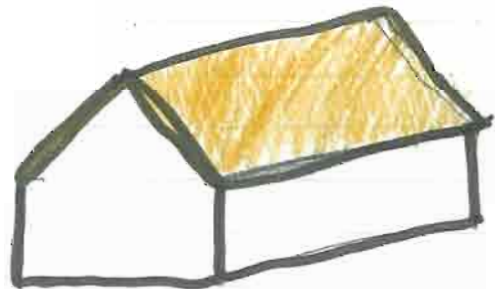


↓
仏教と一緒に
お寺の建て方
も学んだ。

白鳳時代
(645年
〜
710年)

一般の住民 → 茅葺きか、石を置いた板葺き屋根。

神社
仏教が伝わる前は
切妻屋根





(D82)

大社造 たいしゃづくり

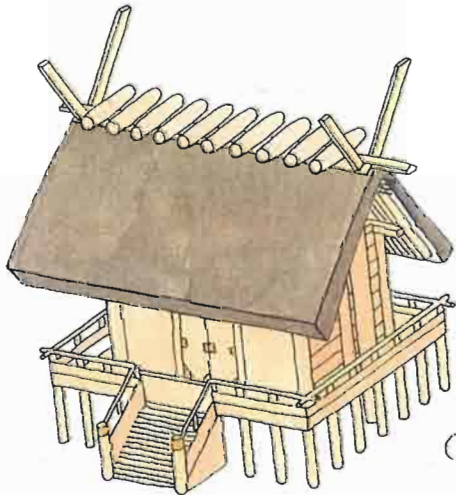
- 出雲大社 (島根)
- 神云鬼神社 (島根)



(D82)

住吉造 すみよしづくり

- 住吉大社 (大阪)

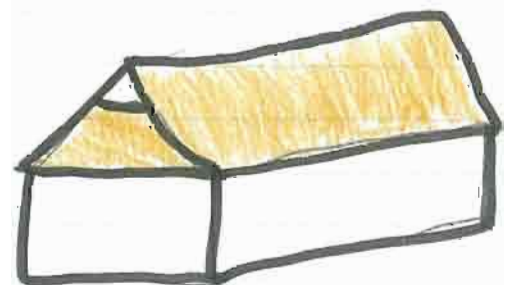


(D82)

神明造 しんめい

- 伊勢神宮 (三重)
- 熱田神宮 (愛知)
- 仁科神明宮 (長野)

仏教が広まると寺院の
えいしょうを受けて
入母屋屋根が主流になる。





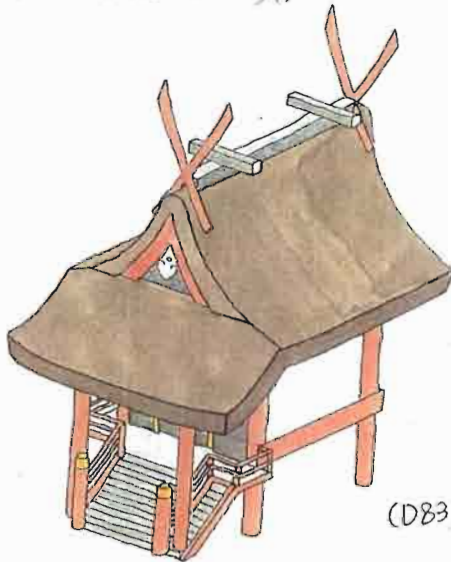
(D82)

人母屋造 いりもやづくり
 ・御上神社(滋賀)



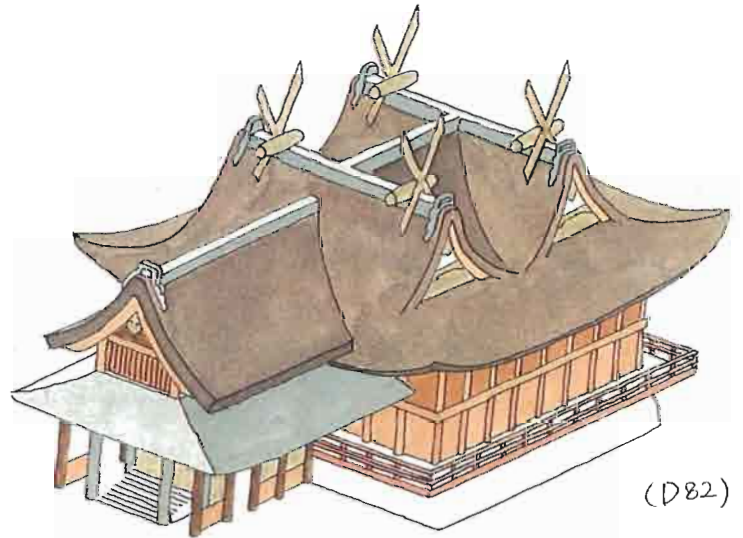
(D83)

日吉造 ひえづくり
 ・日吉大社(滋賀)



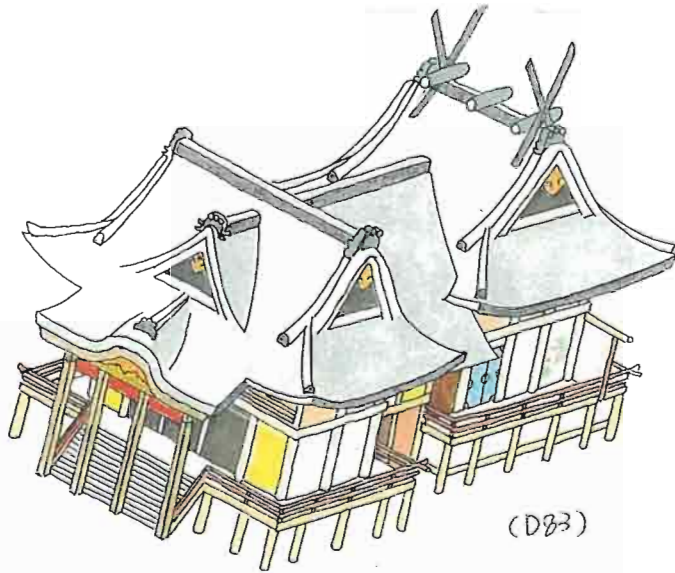
(D83)

春日造 かすがづくり
 ・春日大社(奈良)
 ・宇太水分神社(奈良)



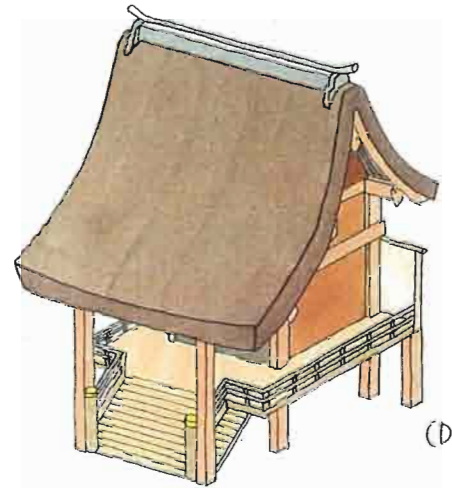
(D82)

吉備津造 きびつづくり
 ・吉備津神社(岡山)



権現造 けんげんづくり

- 北里子天満宮(京都)
- 大崎八幡宮(宮城)



流造 ながれづくり

- 宇治上神社(京都)



八幡造 はちまんづくり

- 宇佐神社(大分)

奈良時代
(710年
S
794年)



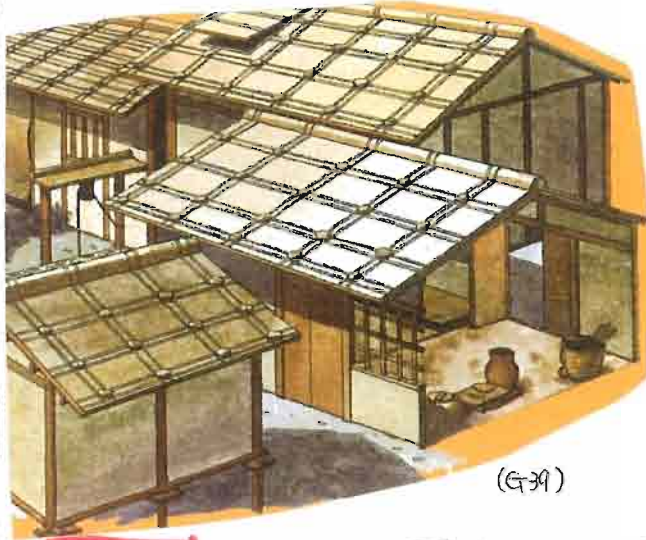
(G28)

◦天皇が外国からの使いの人と会う
宮殿の屋根にあった鬼瓦。
鬼瓦は邪気をはらい、火事雷、台風など
家に害があるものを遠くはらう役割がある。

◦宮殿の屋根は全部瓦で出来ていた。

奈良時代の前期に左大臣をしていた長屋王の家は柿葺き(かしらぎ)か
木会皮葺き(きあだぶき)の屋根だったが一部には瓦屋根も使われていた。

平安時代
(794年)
〜
1185年)



町屋(住居兼店舗の商人の家)は、
今までほとんどかわりかよく
石置きの板葺き屋根になっている。

宮殿 → 木会皮葺き屋根
が多かった。

寺院 → 中国様式の瓦葺き屋根が多かった。

屋根の頂点などに特別な瓦(鬼瓦)が
置かれた。角が生えたような鬼面は
室町時代の以降で、それ以前は人面とも獣面
ともとれるおもしろい面が多い。

いろいろな寺院の鬼瓦



• 中山寺(兵庫) (B66)



• 相国寺(京都) (B67)



• 神童寺(京都) (B67)

・法隆寺(奈良)



(B20)



(B21)

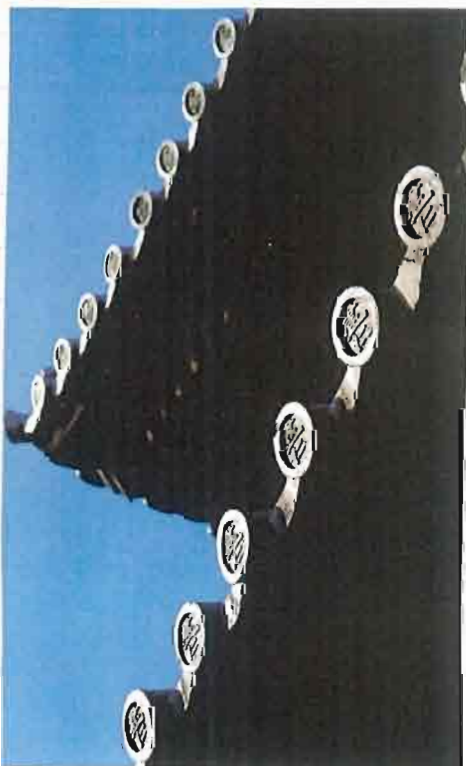


(B21)



(B21)

寺院のその他の屋根の瓦



(B66)

・建仁寺(京都)の軒瓦

寺院の名前が記してある。



(B67)



• 東大寺(奈良)の留蓋瓦
↓
鶺鴒の形をしている。

(B67)



• 當麻寺(奈良)の獅子口

鎌倉時代
(1185年
〜
1333年)



武士の住宅

↓
茅葺き屋根と
板葺き屋根ができていた。

(G54)

室町時代
(1333年
〜
1573年)



金閣寺

↓
柿葺き屋根

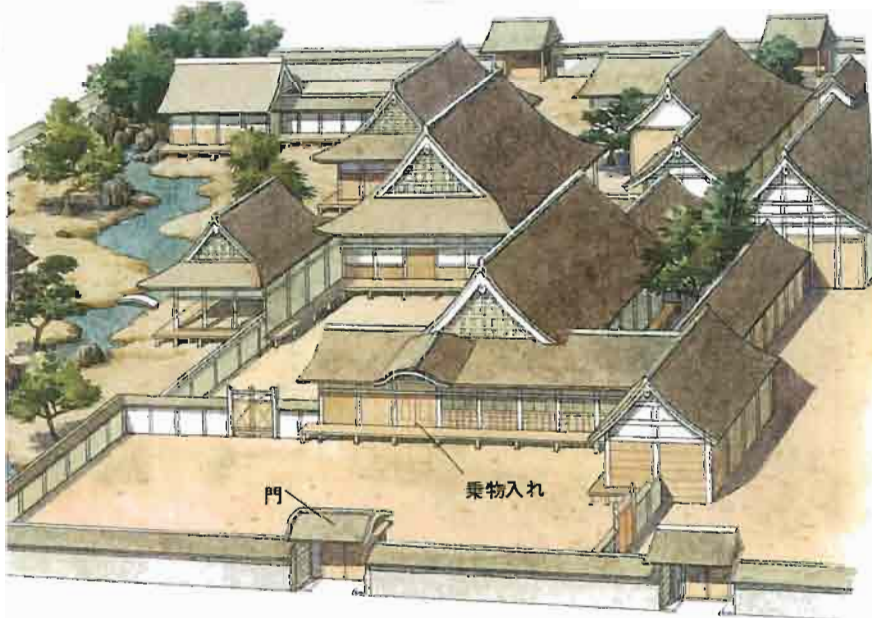
(G59)



銀閣寺

↓
松皮葺き屋根

(G60)



有力な大名

↓
細川邸もまた
瓦屋根では
なかった。

門

乗物入れ

(G55)

木光山田時代
(1573年
S
1600年)

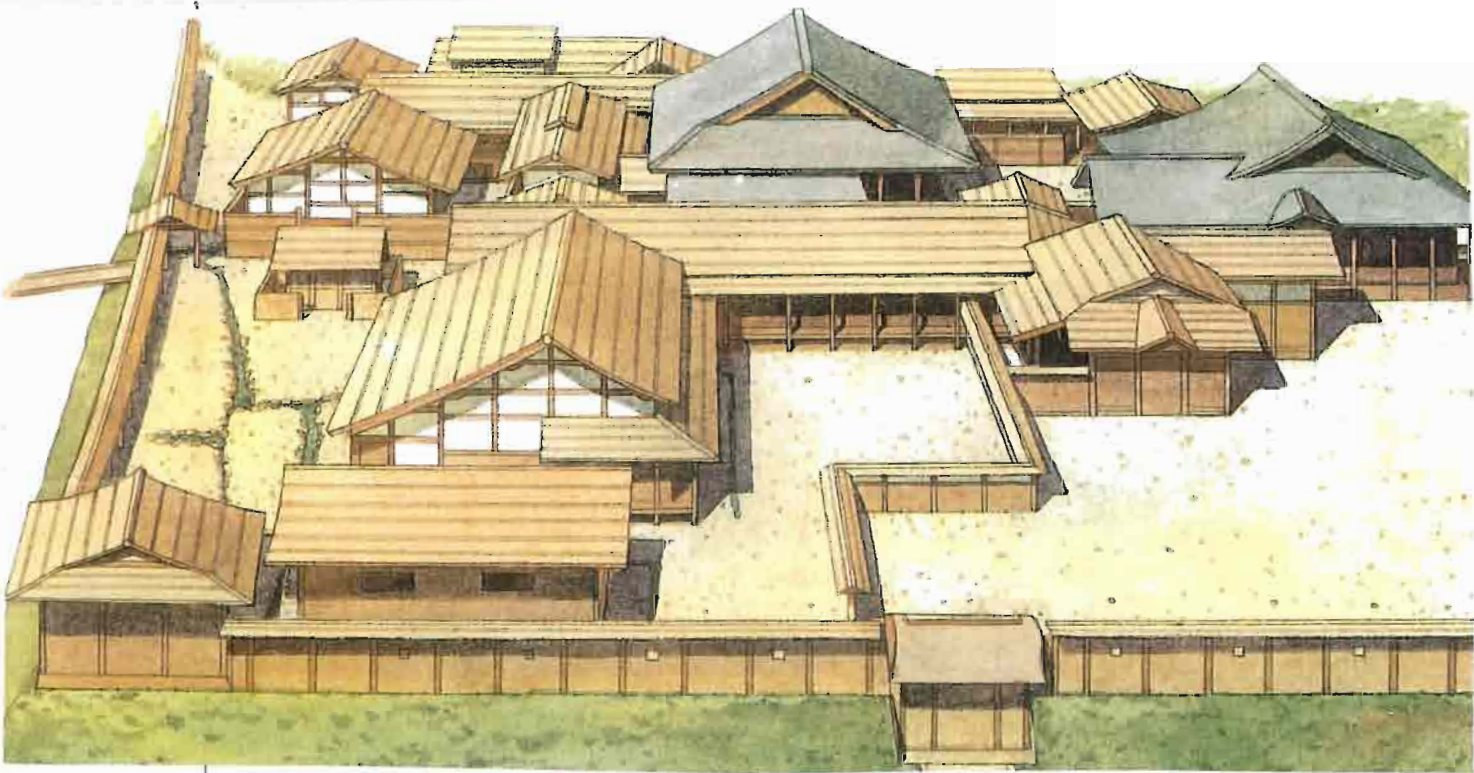
(単式国時代)



町屋

↓
石置き板葺き屋根。

(G69)



武将の屋敷

- ↓
- 朝倉氏(福井)の家は板葺きと
檜皮葺きでできていた。
- 江戸時代初期に瓦屋根のついた
屋敷を囲むへいかりができた。



お城

↓

この時代からお城が日本各地に作られるようになってきた。

城をうばい合う戦国時代、家紋を瓦に記すことで、城の主がたゞれであるかを主張した。

お城の屋根につけられた鬼瓦や家紋を表した鬼板



•大和郡山城(奈良)の鬼瓦

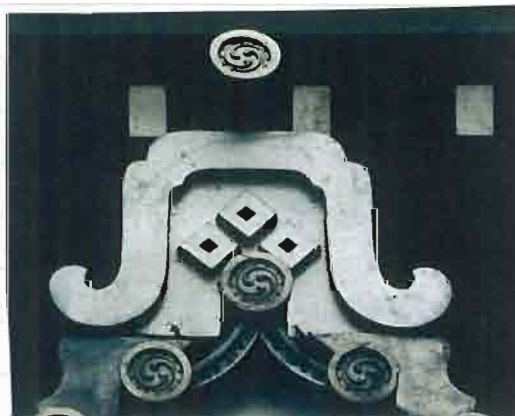
(c72) •北の庄城(福井)の石鬼瓦



(c72)



(c73)



(c73)

•福知山土成(京都)の鬼板
四目菱紋

•大和郡山城(奈良)の鬼板
五三の桐紋



・大垣城(山支阜)の鬼板
桃紋

(C'13)

江戸時代
(1600年
〜
1868年)

- 地方の大きな力を持つ農家の中には江戸や京都などいい住む上層階級が住むよりなせいたくな家建てるものもありおれた。
- 江戸では瓦葺きの屋根の家を持つ事をとてもすすめられた。
- 木葺瓦が考えられ、瓦屋根は費用が安くなった。
- 二木重類の瓦葺き



(G'11)

- ・本瓦葺き
平瓦と丸瓦を交互に葺いた屋根



(G'12)

- ・葺瓦葺き
方形で波状の形を持つ瓦を組み合わせた葺き方で災害に強い。



町屋

↓
富山県にある江戸中其月の
もの。石置きの板葺き屋根。

(G77)



旅籠(はたご)

↓
岩手県にある江戸時代の
いなかの旅籠。
茅葺き屋根の片側に
けむりが出る所がある。
入口は板葺きの石置屋根。

(G117)



宿場町

↓
鳴海宿(愛知)
様瓦葺きの家々が並ん
でいる。

(G77)



↓
石部宿(滋賀)
茅葺きの家々が並んで
いる。

(G88)

民家 → 地方のいなかで発展した伝統的な建物
民家の外観は地方によってさまざま。



直屋(すまや)
全国的な一般の民家。



山支阜、富山の合掌造

- 屋根の角度は60度くらい
↓
大雪に対応している。
- 屋根の茅の厚みは1m
- 屋根の面は東西を向いている。
↓
① 陽に当てて茅をかみそらせるため
② 川に沿って南北に吹く風の
ていそを少なくするため
- 屋根は管理をきちんとすれば
約100年もつと言われている。



○ 合掌造の民家の多くは築250年以上

「^刈系吉」とよばれる
地主或住民の連りて
茅替えを30~40年に
一度する

○ 新しい屋根の葺きかえに必要な茅を
集めてかみそらせて、すべてを束に
まとめるには、何ヶ月もかかり、作業に
は何百人もの労働力がかかる。

○ 古い茅の束を全部屋根からおろす
のに三日かかる

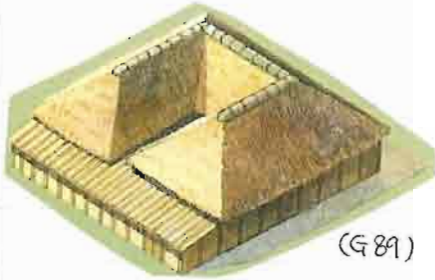
◦くきなど金属は一切使用しない
 ↓
 77で糸編んだ糸電でまつくしはる
 ◦古い茅の束は燃料として使用する。



福井県(旧山下家)の大浦型

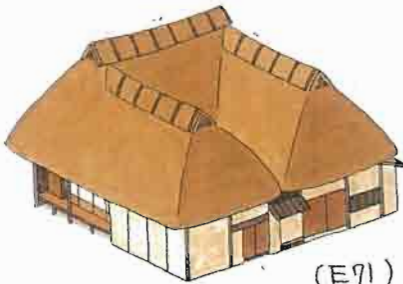
(G48)

佐賀県のくど造

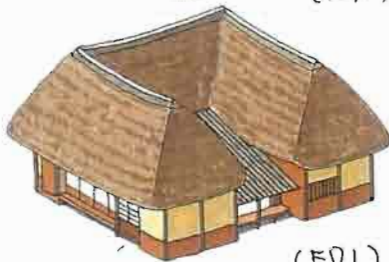


(G89)

- この字型の屋根
- 台風風の風のでいぶを弱めるための形



(E91)



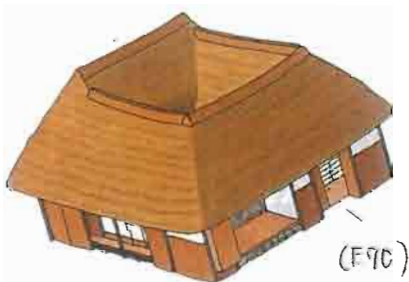
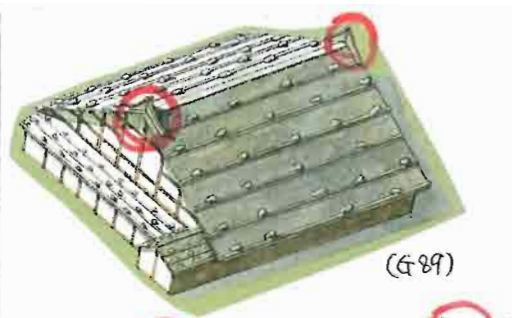
(E91)

宮崎県の等家造



(G89)

- 急な山間部に建てるため部屋が横一列に並んでいて細長い。



ほんま
長野県の本棟造

- 角度のゆるい大きい屋根が特徴
- 板葺き屋根が多い

◦ 雀おどりとよはれる棟かきりがある

和歌山県と奈良県の県境の十津川造

- 台風の被害にそなえるために屋根は柿葺きで、雨風よけの板葺きの先に張りめぐらされている。

まがりや
岩手県の曲家

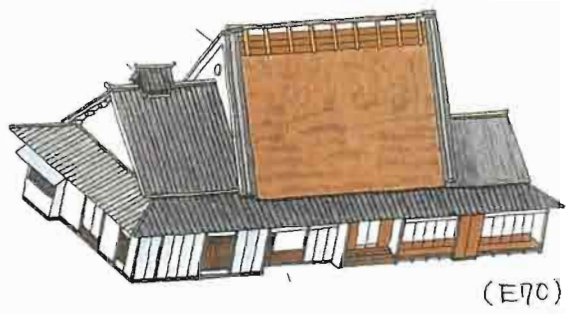
- 住居と馬屋がL字型につながっている

↓
この土地土気は冬が長くきびしいので馬が凍死しないように住居の温かさが伝わるようになっている

九州のじょうか造

- 佐賀県のくど造にちやう一本を加えて回字型になっている

大阪府(吉村家)の
大和棟または高塚造
大和入



○中央の屋根



茅葺き

両はじ

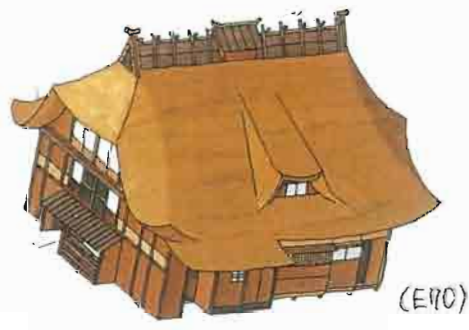


瓦葺き



(E90)

かぶと造



← (山梨県の高八方
山形県の田麦俣) 寄棟



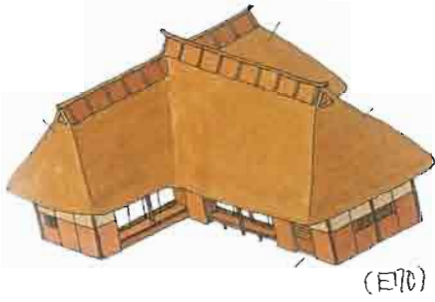
← (山梨県
・ 東京都) 入母屋



(E71)

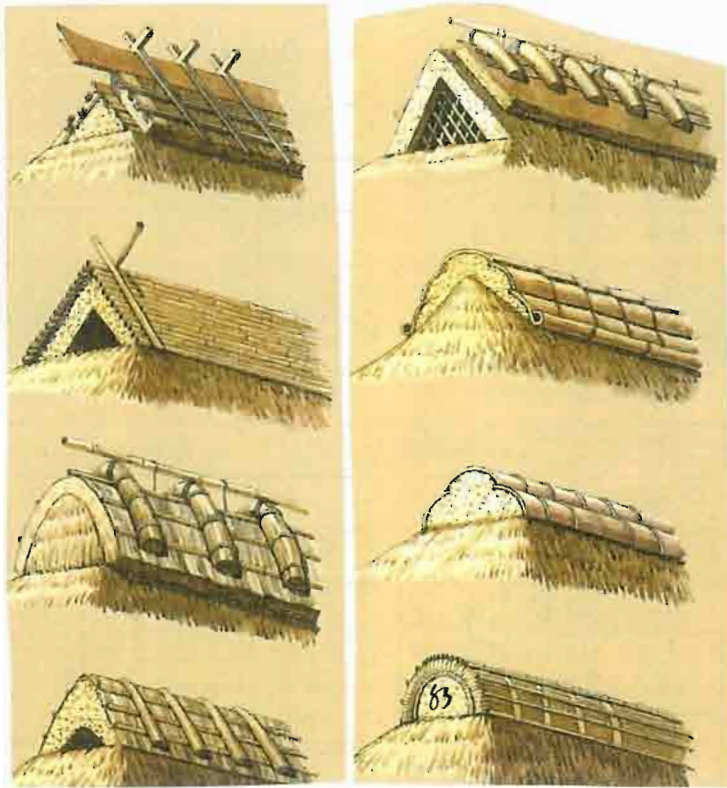
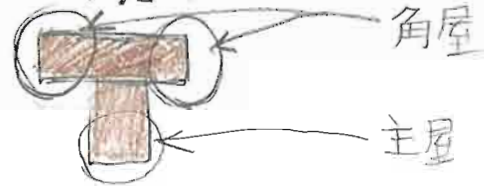
九州の分棟型

北陸の角屋



(E70)

。上から見た図



茅葺き屋根の棟じまい

伝統的な民家の屋根は、茅を雨や雪から守るためにけいしゃがきつい。
屋根の丁頁上の形は土地によってさまざま、東京より北の土壌域では簡素な"か"、南ではマッている。

(G89)

明治時代
(1868年
〜
1912年)

明治維新(1868年)から西洋の文化が広まった。

◦宇治山田(京都)に明治4年に建設された郵便局の西洋式建築物。銅張りのドーム型の屋根。



(G108)



(G111)

◦松本市(長野)に明治6年に開校した旧開智学校。校舎の屋根は桧瓦葺きで脊木造。屋根の上には八角形の塔が作られている。



(G112)

◦東京に明治20年に建てられた家。都市部の一般住宅の典型例で瓦屋根。

8

見に行、大事があつた昔の屋根

● うたつのある町(岐阜県 美濃市) → 2009年



● 「生活や地味が向上しない」

「見栄えがしない」

「うたつが上からでない」
の語源の一つ

● 美濃市

↓
丘の上に位置する

↓
水害や地震に強い

↓
水にとほしい

↓
火災が発生すると大惨事

↓
家と家の間に火事になった時に火が移らないようにするための柱

↓
うたつ

↓
江戸時代くらいから商人の間で財力を見せつけるために競って立派な物を屋根の上に付けるようになった



旧今井家住宅(西側)/泉町



(H)

● 旧今井家

江戸時代のものので"最も古い形式"



(H)



(H)

○ 旧小坂家

屋根全面に"起り"があるのが"特ちょう"

松久家住宅/本住町



(H)

○ 松久家

起瓦が"屋号を表している(店の名前)"

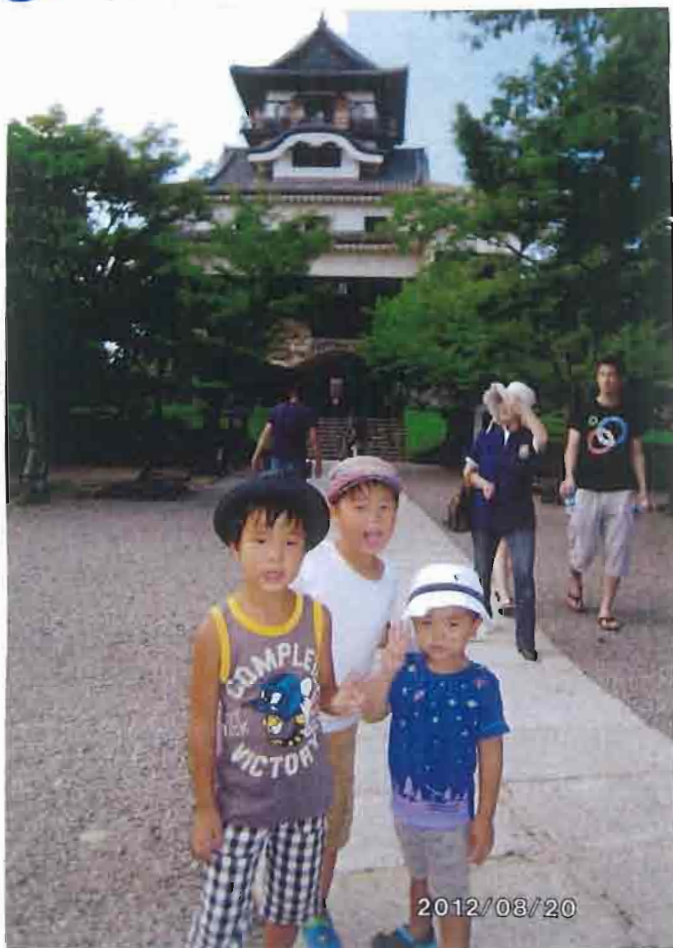


(H)

○ 平田家、古川家

明治時代のもの

● 犬山城 (愛知県犬山市) → 2012年



(3)



(5)

● 亀のまわりに桃がのった
魔よけ

↓
昔から犬山は桃が牛蒡産
で、やくよけや不老長寿の
意味合いがある事から、
お土城の屋根を守る鬼瓦に
さい用された。

9 今年の夏休みに見に行った昔の屋根

● 合掌村(岐阜県 下呂市)



● 世界遺産の岐阜県白川郷にてある御母衣(おぼろ)土地区にダムが出来ることになり、昭和37~38年にかけて下呂市に10棟を移して建てた。

● 旧大戸家住宅は合掌造の中では、世界最大級のもので、天保4年(1833年)から弘化3年(1846年)までの13年かけて、江戸時代後半に造られたもの。切妻、茅葺き、合掌造り

● 現在葺きかえの準備中。写真の反対側の屋根の面は昭和61年に2ヶ月かけて葺きかえた。

コケや草が屋根に生えている。



旧大戸家住宅
(国指定重要有形民俗文化財)

(K)

国指定重要有形民俗文化財
旧大戸家住宅 屋根の葺き替え
 工事を実施しています。
 ご注意とご協力をお願い致します。



● 約1mのははが
ある屋根は、茅が
ぎっしりつまっている。

● クキなどは1本も
使おか、糸で
きつくしばっている。

● 木が黒いのは、
いりりかけ出るす
で、虫よけになっ
ている。



● 白川郷の合掌造り
の屋根は
・白川村および
北の土地域

↓
越中(富山県)の
職人による切妻造り
・南部の荘川土地域

↓
飛騨高山の系統の
入母屋造り

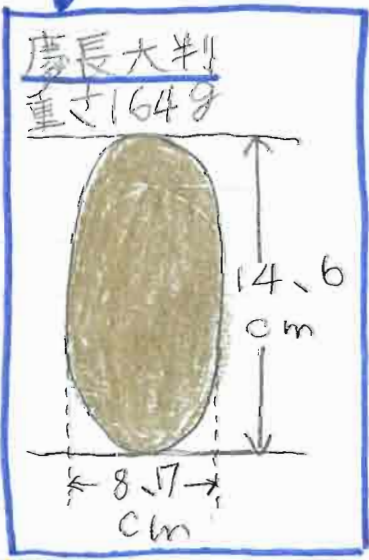


● 名古屋城 (愛知県 名古屋市)



● 慶長15年(1610年)~17年(1612年)に徳川家康によって建てられ、昭和5年(1930年)にお城として初めて国宝に指定されたが、昭和20年(1945年)戦争中の空襲によってほぼ焼けてしまったが、昭和34年(1959年)再建された。

● 天守閣の入母屋造りの瓦屋根の上に金のシャチホコがかかっている。シャチは空想上の生き物で「水を呼ぶ」といわれていることから、火除けのおまじないとして使われてきた。建築したとき金のシャチホコには徳川家の権力財力をほこるもので、貼られた金の量は大きい金の小判(慶長大判)で1940枚といわれている。シャチホコはオスとメスで1組になっている。



● 実物大の金のシャチホコはとても大きくて、またかつて写真がとれる。

● 現在のシャチについて



	メス	オス
高さ	2,579m	2,621m
重さ	1215kg	1272kg
金板の種類	18K	18K
金板の厚み	0.15mm	0.15mm
羽の枚数	126枚	112枚
金量(18K)	43.39kg	44.69kg



(火災前) (M)

● 本丸御殿は天守閣が建てられたあとの慶長20年(1615年)に建てられたが昭和20年(1945年)に天守閣と共に焼失した。

● 2009年から復元工事が始まり、現在3分の1が公開中。



(復元)

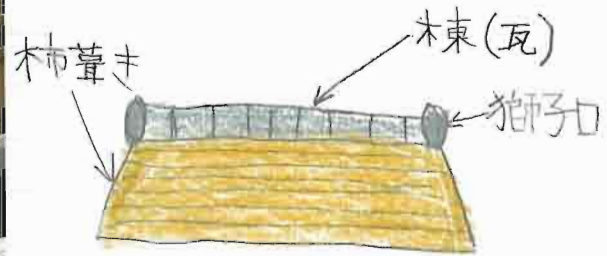


工事期間 2011~2016年
2014~2018年

工事期間
2009~2013年
公開中



● 本丸御殿の屋根は柿(こけり)葺きで棟の部分だけ瓦になっていて、棟の両はしいは獅子口がっついてる。



(M)



(M)

● 柿葺きはスギなどの木材を3mmぐらいの厚さに切った板を、竹クサで打ちつけて1枚ずつ屋根の下から上へ向かって少しずつ重ねていきます。

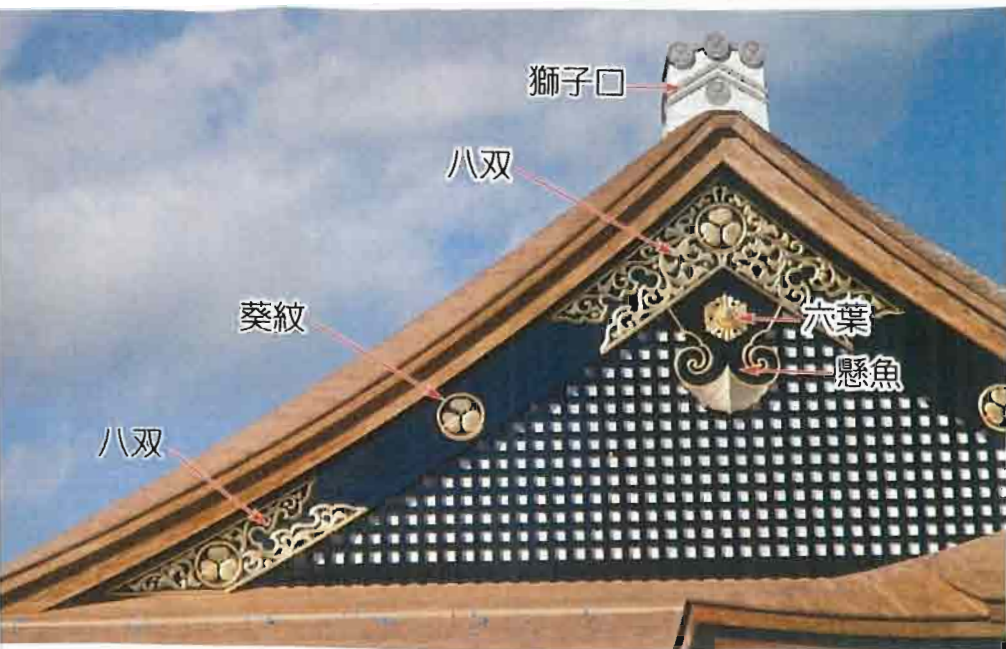


(M)



柿葺きの木模型





● 獅子口は鬼瓦の一種で「大きい物で100kgをこえる物もある。」

● 破風(はふい)金具には
 (・八双(はっそう)
 ・三葉葵紋
 ・懸魚(けがぎょ)
 などがある。

● 懸魚は建物の火除けの意味があったといわれている。



(M)

(M)

(M)

↑ 獅子口を作っているとマろ。



(M)

↑ 懸魚

10

まとめ



文化財



おじいちゃんおはちゃんか
 住んでいる愛知県一宮市は
 織物の町で、のりまの屋根
 の工場がたくさんありました。
 お母さんが小さいころの
 ときよりは少なくなった
 そうですが、あちこちで
 見ることが出来ました。
 近所には市の文化財に
なっている家や蔵がある家
 もたくさんありました。
 おじいちゃんの話によると、
 この辺りはほとんどの人が
 昔から代々住んでいる人
 は「かりで」とくにお金持ち
 の人ほど、瓦屋根を
 葺きかえながら家を
 大事に使っているそうです。



ぼくが住んでいる豊島区南長崎6丁目を調べた時はスレートの切妻屋根が一番多かったけれど、

おじいちゃんの家の新戸の半分以上は瓦屋根の家で、入母屋造りをたくさん見ることができました。

この辺りのお年寄りのお家は瓦屋根で、屋根が立派だと、その家は財力がある

という考えの人が多いそうです。おじいちゃんから

この話を聞いたとき、ぼくは岐阜県美濃市の「うだつ」

に似ているなと思いました。東京から新幹線に乗り名古屋へ。

名古屋から「特急」7分ビューで



県庁

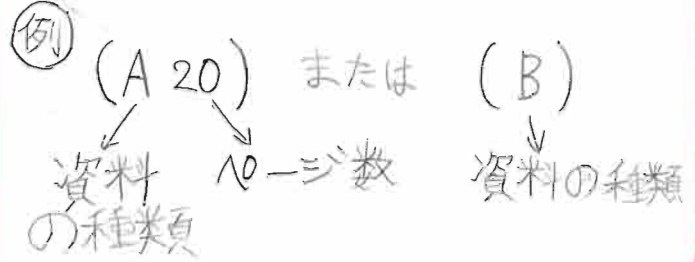


最寄りの
地下鉄

に乗り岐阜県下呂市に向かいました。岐阜県の山の中に入っていくと、ほとくの家が
おじいちゃんの家
の家の周りでは
全く見ることができなかつた、
越屋根をいくつも見ることが
できました。名古屋城の近く
にある愛知県庁が最寄りの
地下鉄の出入り口の屋根は
お城のようになっていました。
日本の屋根の歴史で「何百年
もの間日本社会は身分など
によって材料がちがう」と

学びましたが、調べ学習
全体や今年の夏休みの
旅行で「日本の屋根は
歴史、気候、地域、風習に
よってちがうことがわかり
ました。

※ 掲載写真・イラスト表記方法



参考資料

豊島区立千早図書館

本の名前	著者 (発行所)	写真・イラスト掲載	
		記号	ページ数
図解雑学 建築と構造 建築のしくみ	山田信亮 (ナツメ社) 斉藤祐子 (ナツメ社)	A	148
雑学ビジュアル図解辞典 神社・寺・茶室・民家 違いがわかる! 日本の建築	宮元健次 (株式会社PHP研究所)		
イラストでわかる 建築用語	上野夕シ、大庭明典 来馬輝順、多田和秀 山本寛 (ナツメ社)		
さがしてみよう日本のかたち ① 寺	立松和平 (山と溪谷社)	B	20、21、66、67
② 城	中村良夫 (山と溪谷社)	C	72、73
③ 神社	桑子敏雄 (山と溪谷社)	D	82、83
④ 民家	日奔貞夫 (山と溪谷社)	E	14、60、70、71
住まい方を考える ① 住まいのしくみを知る ② 快適で安全な住まい のくふう	益子義弘 (あかね書房)		

新宿区立西落合図書館

建築物・様式 ビジュアルハンドブック	戸谷英世、竹山清明 (株式会社エクスプレス)		
日本の町並み 250	株式会社ウエスト・パブリッシング (山と溪谷社)	F	249

ビジュアル版 日本の建物 歴史時代から現代まで	マイビルド・ヤング & 美智子(木村)ヤング (チャールズ・I・グロブ出版)	G	8、12、13、28、39、54、 59、60、55、69、70、77、 84、88、89、90、108、110、 112、117
最新 住宅業界の動向 とカラクリがよ〜くわかる本	阿部守 (株式会社 秀和システム)		

パンフレット

パンフレット名	現住所	写真掲載記号
うだつのおがら田並み 美濃市	岐阜県美濃市泉町 1833	H
和紙とうだつのまち 美濃市		I
国宝 犬山城	愛知県犬山市犬山北古券 65-2	J
心のかほり下呂温泉 合掌村	岐阜県下呂市森 2369	K
名古屋城 威風堂々 名古屋城本丸御殿	愛知県名古屋市中区本丸1番1号	L
名古屋城 本丸御殿		M

土地図

本の名前	記号	№-シ数
街の達人が教える 全東京23区多摩 便利情報土地図	N	149

ウェブサイト

サイト名	写真掲載記号
ラッドセー・スランデ (瓦)	O
アーヴィン日本建株式会社 (セメント瓦)	P
マジック・デコレーション (スレート)	Q
屋根専門の職人集団 ホーリフーム (金属系)	R
犬山城	S

写真撮映 → お父さん、お母さん

協力 → おじいちゃん、おばあちゃん、香織ちゃん、耕くん、
証くん、平くん、暑い中、一緒に行ってくれて、ありがとう。